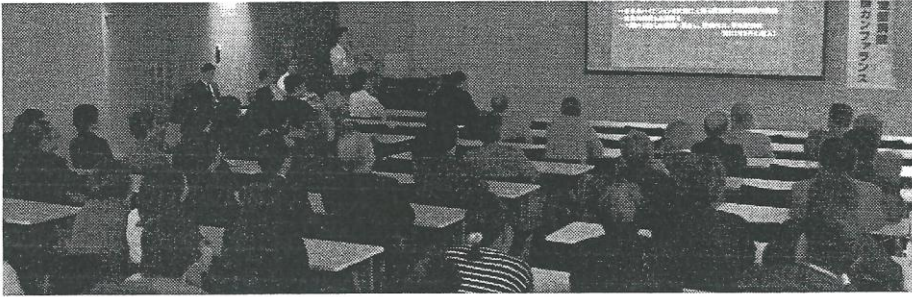


# 「完全胸腔」メリット大

## 内視鏡手術の現状説明

製鉄病院

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)の「医療連携カンファランス」が、室蘭市知利別町の同病院がん診療センターで開か



れ、担当医師らが、同病院の消化器内視鏡診断・治療や、胸腔鏡を用いた呼吸器外科手術の現状などを解説。出席した西胆振管内の医療関係者らは、地域医療連携に関する現状などを共有した。

同病院の医師ら関係者のほか、西胆振管内の医師や開業医、クリニックなどのコメディカル(医師の指示の下で業務を行う医療従事者)ら約90人が出席。同病院の藤井重之(消化器内科長)、長谷龍之介(呼吸器外科長)が解説した。

藤井消化器内科長は、消化器内視鏡診断・治療の現状を説明。2008年(平成20年)開設の内視鏡センターは、15年に

消化器内視鏡や胸腔鏡手術などの情報を共有した「医療連携カンファランス」

は6100件余の検査を行ったことなどを報告した一方、早期胃がんや大腸がんの内視鏡的治療、適応拡大となった小腸カプセル検査の現状などを話した。

長谷呼吸器外科長は、

同病院で積極的に取り組み、本年度はすでに115件(1月20日現在)実施した「完全胸腔鏡手術」を説明。開胸手術や胸腔鏡補助下手術と比べて、傷口や痛みが小さく、呼吸に重要な筋肉を大きく切る必要がないメリットを示し、「患者さんの負担が小さく、術後の回復期間を短くすることが可能」と強調。出席者は真剣に耳を傾けていた。

(松岡秀宜)